

日本語であそぼう ふなばし 2007

夏休み子ども日本語教室

報告書

日本語であそぼうふなばし 2007 企画	……………	P.2
実践報告 1. 統計	……………	P.3
実践報告 2. カリキュラムの内容と実際	……………	P.4
総括	……………	P.6

作成：地球っ子プロジェクト

2007年8月31日

日本語であそぼうふなばし 2007 企画

事業名	日本語であそぼうふなばし 2007 (夏休みこども日本語教室)																		
実施日時	平成19年7月21日(土)～23日(日) 09:00～12:00																		
実施場所	東部公民館および県立現代産業科学館																		
参加者	日本語学習について支援を必要とする市内の外国人児童生徒(小中学生)及び日本人児童 約15～20名 *支援ボランティア 約15名																		
事業目的	外国人児童生徒(日本語を母語としない児童生徒)が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行うため「夏休み子ども日本語教室」を実施する。 併せて、日本人児童生徒の参加による国際理解教育も行う。																		
事業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月 日</th> <th>時 間</th> <th>場 所</th> <th>カリキュラム (各レベル共通テーマ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月21日 (土)</td> <td>09:00～ 12:00</td> <td>東部公民館 第2、3集会室</td> <td>1) 自己紹介 2) 「計画を立てる」 2日目の準備とミニ実験</td> </tr> <tr> <td>7月22日 (日)</td> <td>09:00～ 13:00</td> <td>県立現代産業科学館</td> <td>自分の作った計画カードに従って実験に参加</td> </tr> <tr> <td>7月23日 (月)</td> <td>09:00～ 12:00</td> <td>東部公民館 4F 講堂</td> <td>1) 実験のまとめ 日記など、発表 2) お楽しみ会: ゲームラリー</td> </tr> </tbody> </table>			月 日	時 間	場 所	カリキュラム (各レベル共通テーマ)	7月21日 (土)	09:00～ 12:00	東部公民館 第2、3集会室	1) 自己紹介 2) 「計画を立てる」 2日目の準備とミニ実験	7月22日 (日)	09:00～ 13:00	県立現代産業科学館	自分の作った計画カードに従って実験に参加	7月23日 (月)	09:00～ 12:00	東部公民館 4F 講堂	1) 実験のまとめ 日記など、発表 2) お楽しみ会: ゲームラリー
月 日	時 間	場 所	カリキュラム (各レベル共通テーマ)																
7月21日 (土)	09:00～ 12:00	東部公民館 第2、3集会室	1) 自己紹介 2) 「計画を立てる」 2日目の準備とミニ実験																
7月22日 (日)	09:00～ 13:00	県立現代産業科学館	自分の作った計画カードに従って実験に参加																
7月23日 (月)	09:00～ 12:00	東部公民館 4F 講堂	1) 実験のまとめ 日記など、発表 2) お楽しみ会: ゲームラリー																

主催・共催・後援等

主催：地球っ子プロジェクト(社会教育団体)

共催：東部公民館

後援：文部科学省研究指定 帰国・外国人児童生徒受け入れ促進事業
(事務局 船橋市教育委員会指導課)

：船橋市国際交流協会

実践報告 1. 統計

1.参加者の人数

申し込み人数（25名）、キャンセル（7名）

2007年7月	21日（土）	22日（日）	23日（月）
児童生徒	15	16	15
ボランティア	15	17	18
学校、教委関係	1	0	0

2.児童・生徒内訳

1日でも参加した児童生徒の人数（18名）内、土曜日の子ども日本語教室のメンバー（7名）

学年別

就学前	1
小1	4
小2	3
小3	2
小4	1
小5	2
中1	2
中2	1
中3	1
その他	1
合計	18

国籍別

フィリピン	3
アメリカ（含 在米日本人）	4
ネパール	2
中国	2
日本（含帰国）	3
ルーマニア	1
パキスタン	1
韓国	1
ウクライナ	1
合計	18

3.参加者の居住地の傾向

新京成線沿線、津田沼からバス路線、JR線沿い本八幡あたりまでが多かった。

4.経費 約 50,000 円

子ども日本語教室以外からの参加者保険料

教材、文房具、写真、印刷、通信、外出時の軽食、お楽しみ会の菓子・飲み物
ボランティア会議費等

これらの経費は、地球っ子プロジェクトの予算からの補助、寄付金で充当した。また外部から参加された支援ボランティアの方々には保険料を負担いただいた。

実践報告 2. カリキュラムの内容と実際

(1) グループ編成

昨年同様、参加者のレベルや年齢層が多様であったため、日本語のレベルではなく、学年で分けることによって、同年代の仲間との異文化交流がはかれるようにした。

グループ 1	就学前～小学校 1・2 年
グループ 2	小学校 3・4 年
グループ 3	小学校 5・6 年
グループ 4	中学校他

(2) 全体のテーマ

- 1.好きなもの、好きなことを話して友だちを作ろう
- 2.計画を立てて、実験しよう

(3) プログラム

1 日目	
自己紹介	「好きなこと好きなものマップ」を作り、発表することで、自己紹介を兼ねて表現力、文字の能力を知る。 グループに分かれる前に、「部屋の四隅」で「食べ物」→「肉」（牛、豚、とり）「野菜」（ほうれん草、ジャガイモ、ピーマン）を使って、グループ分けの概念を練習。
グループ 1	好きなものに集中できるよう、あらかじめ画用紙にグループ分けのためのレイアウトを描いておいたため、1つの枠には同じ種類の好きな物を絵で書くことができた。日本語が書ける子は、名称も記入した。
グループ 2	絵での表現がほとんどだったが、自分でグループ別のレイアウトを自由に表現できた。日本人の子がグループにいて、グループの名前や、物の名称を書いたため、他の子にも影響があったようだ。同じグループの物を複数作った子もいたが、概ねグループの概念を理解しているようだった。
グループ 3	高学年ということもあり、グループ分けのレイアウトに個性が強く出ていた。横に1列に並べたり、画用紙を4つに分割したりなど。スポーツの種類、外国の動物の絵など、語彙力も多かった。一人は、全く絵を用いず、文字だけで表現した。
グループ 4	中学生のグループでは、イラスト程度で、ほとんど絵を描く子はいなかった。来日直後の子は、自分で英語で書いた物をボランティアといっしょに日本語に直す作業を行った。よく日本語がわかる子は文で表現した。

実験の準備	産業科学館のパンフレットの読みとミニ実験で、科学の言葉を覚え、2日目の産業科学館での体験を計画的に楽しめるように準備する。 ミニ実験：1 泥水を毛細管現象の力で濾過する。 2 表面張力で、水の入ったコップに紙を当てて逆さまにする。 3 五円玉の遠心力で、ペットボトルを持ち上げる
グループ1	パンフレットの読みは難しいので、写真の説明にとどめた。ミニ実験を中心に行った。ミニ実験1、2。「ハンカチ落とし」や「だるまさんがころんだ」をして、実験の結果を待ったが、みんなでいっしょに楽しめてよかったようだ。
グループ2	パンフレットの内容とスタンプラリーのカードのテーマ名を照らし合わせて、テーマ名で実験の内容がわかるようにメモ（イラストなど）をした。ミニ実験1、2。実験待ちの時間に、グループ1といっしょに「だるまさんがころんだ」を楽しんだ。
グループ3	来日間もないため、パンフレットの読みは難しかったようだ。折り紙などをして遊びながら、ミニ実験1、2、3すべて参加。
グループ4	パンフレットの読み合わせを行った。来日直後の2名には、漢字の筆談や、英語を用いて説明した。英語圏同士、中国語圏同士の助け合いも見られた。ミニ実験は、難度の高い3を行ったところ、小学生も参加したがため希望者には体験させた。上手にできた子がおしえる場面もあった。

ミニ実験プログラム

ちからとうんどう 1. 力と運動	ひょうめんちょうりょく 2. 表面張力	もうさいかんげんしょう 3. 毛細管現象
まわしておこすえんしんりょく 回して起こす遠心力	ひょうめんちょうりょくのふしぎ 表面張力の不思議	もうさいかんげんしょうのふしぎ 毛細管現象の不思議
5えんだまはちからもち 5円玉は力持ち	みず さかさまにしてもこぼれない水	かみなぶきん 紙ナプキンできれいな水
科学館展示あり えんしんぶんり 遠心分離（ハンドルを強く 回すと赤と白どっちが外に 行くかな）	科学館展示あり ひょうめんちょうりょく 表面張力（大きなシャボンダ マ）	科学館展示なし。 「実験」というものの体験と興味を喚起。

<p>5円玉</p> <p>いと 1めーとる たこ糸 1 m</p> <p>べつとぼとる つつ ペットボトル、筒</p>	<p>コップ</p> <p>かみ 紙 (例 はがき)</p> <p>みず すい 水、せっけん水</p>	<p>紙ナプキン</p> <p>こっぶ 2こ コップ 2こ</p> <p>どろ、みず 泥、水</p>
<p>いと くび 1. たこ糸をボトルの首 にかたく <small>むす</small> 結ぶ。</p> <p>2. たこ糸の先を筒に通 す。</p> <p>3. たこ糸のまん中あたり に5円玉を結ぶ。</p>	<p>はちぶんめ い コップに8分目くらいの水を入 れて、はがきでふたをしてコッ プの口 <small>くち</small> をふさぐ。</p>	<p>1. コップに泥と水を入れて、 どろみず <small>つく</small> 泥水を作る。</p> <p>2. 泥水の入ったコップのと なりに、空 <small>から</small> のコップを <small>お</small> 置き、 紙ナプキンで橋渡し <small>はしわたし</small> をする。</p> <p>*ナプキンはそれぞれ <small>ぞこ</small> 底につ くようにする。</p>
<p>かたて も 1. 片手でたこ糸の先を持 ち、もう片手で筒を持つ。</p> <p>*ペットボトルが床 <small>ゆか</small> からは なれないように。</p> <p>2. たこ糸の先を、円 <small>えん</small> をえ がくようにまわす。</p>	<p>1. 片手でコップの底を持ち、 もう片手でふたになっているは がきをおさえて、クルッとひっ くりかえす。</p> <p>2. はがきを <small>お</small> 押さえていた手を はなしてみる。</p> <p>3. つぎにせっけん水 <small>すい</small> でやっ てみる。</p>	<p>しばらく <small>ま</small> 待つ。</p>
<p>5円玉が筒のまわりをいき おいよくまわりはじめる と、ペットボトルが浮き上 がる。</p> <p>5円玉にたこ糸をつけてぐ るぐる回すと、5円玉は とお <small>と</small> <small>い</small></p>	<p>はがきをおさえていた手をはな しても、はがきも水も <small>おち</small> 落ちない。</p> <p><small>くうき</small> 空気が入らないように、はがき でフタをすることにより、コッ プの中の水 <small>たい</small> に対して <small>そと</small> 外からの</p>	<p>カラのコップにきれいな水がた まってくる。</p> <p>紙 <small>ぬの</small> や布 <small>せんい</small> は繊維からできてい る。この繊維のあいだのすきま が <small>すいあ</small> 水を吸い上げることを もうさいかんげんしょう、</p>

<p>とおと 遠くへ飛んで行こうとし</p> <p>て糸を強く引く。このちから力</p> <p>を遠心力という。</p> <p>5円玉を強くかいてん回転させる</p> <p>ほど程、遠心力は大きくなるた</p> <p>め、おも重いペットボトルでも</p> <p>もちあ持ち上げることができる。</p>	<p>たいきあつ きんとう 大気圧が均等にかかる。また</p> <p>水の表面張力もはたらき、コップの中の水が落ちようとする力をおさえるので、水もはがきも落ちない。*せっけん水は表面張力が小さいので、こぼれてしまう。</p>	<p>もうさいかんげんしょう 毛細管現象という。</p> <p>水しか吸い上げないので、泥はのこり残り、きれいな水だけがいどう移動する。</p> <p>*この水は飲めない</p>
--	--	---

2日目

現代産業科学館の体験コーナーをスタンプラリー形式で行った。カードに記された実験の名称に沿って、体験した実験に担当のボランティアがシールを貼った。ボランティアの数がほぼ子どもに1対1で付き添えたので、上演時間が決められた実験にもスムーズに迷わず参加できた。中学生は、カードのリストに入れなかったコンピューターを使った機器に関心が高かったようだ。「実験をレポートにまとめる」という課題のため、係の人の説明を聞きながらメモをとっていた。軽食をとり、解散までに時間があつたので、小さい子のグループは午前中にやりきれなかった実験を網羅することができたようだ。

3日目

実験のまとめ	2日目の産業科学館での体験を、写真や絵を使って日記にまとめる
グループ1	少しでも文字で日記を書くように指導した。1日目には全く日本語を話さなかった子も、「スゴイ」など、気持ちを表現するようになった。
グループ2	1語文、複文と、自分のレベルで感想を書いた。パンフレットを見て、ひらがなをカタカナに直したり、漢字に直したり、挑戦した子もいた。
グループ3	好きな写真を選び、レイアウトしてから前日のカードやパンフレットを参考にしながら、すべて日本語で感想を書いた。形容詞の過去形も正しく書けていた。
グループ4	前日科学館でメモしてきたことを、写真を貼って、説明した。日本語が書けない子は、母語で書き、部分的に日本語を習って翻訳した。他の子の知識に感心したり、肌の色が異なる子たちが楽しく活動したことを感

	想に書いた子もいた。
--	------------

お楽しみ会	いろいろなゲームを通じて、楽しみながら発話を促したり、日本語や算数の力も使えるよう工夫した。
かな、漢字釣り堀	自分のレベルでできるよう、ひらがな3つで果物の名前、カタカナ3つで動物の名前、漢字2字で熟語、の3種類の池を作って好きな物に挑戦してもらった。
クイズ	ワードサーチ、図形探し、パズル、数独、言葉のグループ分け、水筆習字、など難易度のいろいろなクイズを並べておき、好きな物に挑戦。
輪投げ	投げる位置を変えて、ハンディをつけた。ピンは大小様々なペットボトルで点数を変えた。輪は折り紙で手作り。
サッカーゴール	ボールを蹴る位置を変えて、ハンディをつけた。点数を書いた紙に向かってキック。
パターゴルフ	本物のパターと、プラスチックの軽いパターを用意した。楽しむことはできたようだが、得点するのはむずかしかったようだ。

総括

主催の母体は変わって来たが、船橋におけるボランティアによる外国人児童生徒と、日本人児童生徒を対象とした夏休み教室は、今回で4回目となった。地球っ子プロジェクトとしては2回目だが、多くのメンバーが1回目から参加していて、経験の積み重ねも短時間でスムーズに計画が実施できたことの大きな要因である。

また市教育委員会の後援があったことで、市内の学校へ案内を送ることができ、国際交流協会の後援により大人の日本語教室との連携がとれたこと、また東部公民館には本年度より共催をいただき、早くから場所を提供してもらえたことなどは、大きな支えとなった。

今回の特徴としては、外国に在住している日本人児童の短期体験の参加が多かったことだ。付き添いの保護者からは、日本にはよいプログラムがあってうらやましい、是非帰ったら紹介したいという言葉もいただいた。また、2日目の外出では電車をつかったり、歩道を歩いたりする経験もし、マナーを覚えるよい機会ともなった。年齢や、言葉の理解度が異なる子どもたちがいっしょに活動することで、大きい子が小さい子の面倒を見たり、日本語がわかる子がわからない子に説明したりする場面もみられたし、ボランティアの作業を手伝う子どもいて、総じて社会性を身につけたり異文化理解につながる活動になったのではと考えている。今後の課題としては、もう少し多くの子どもの情報がいきわたるよう工夫が必要であろう。